

YAMAHA

PF1500/ PF1200

ELECTRONIC PIANO

取扱説明書

このたびは、ヤマハ エレクトロニックピアノ PF1500/PF1200をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

PF1500/PF1200は、リアルなピアノ系の音が楽しめるAWM音源方式のキーボードです。PF1500/PF1200の優れた性能をフルに発揮させると共に、未長くご愛用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みくださいますよう、よろしくお願いたします。

PF1500/PF1200の特長

★AWM音源を採用

ヤマハのデジタル技術を結集し開発したAWM(Advanced Wave Memory)方式の音源を採用しています。AWM音源ならではのリアルなサウンドをお楽しみください。ピアノ系を含め5種類の音色がプリセットされています。

★最大同時発音数16音

最高で16音同時発音が可能です。後着優先ですので、17音以上続いた時は、先の音を消して後の音を鳴らす仕組みです。ただし、サステイン用のペダルをONにしている時の最低音は、必ず残すようになっています。

★幅広い発音音域

88鍵(A₁～C₇)の鍵盤を持っており、幅広い範囲で発音できます。そのうえ、ピアノアクションのフィーリングを実現したAE鍵盤と、鍵盤を叩く強さによって音量や音色変化を表現できるイニシャルタッチ機能を採用しています。

★高品位なエフェクトを内蔵

PF1500はステレオのデジタルリバーブ効果を3種類内蔵しており、演奏する曲の雰囲気や音色に合わせて使い分けることができます。臨場感あふれるサウンドをお楽しみください。

PF1200はステレオコーラス効果を内蔵しており、左右のスピーカーの間を音がうねりながら漂う美しい効果を付加できます。

★トランスポーズが可能

トランスポーズ機能を内蔵しており、弾き方を変えずに簡単に移調することができます。

★ピッチ変更が可能

発音のピッチを変更することができますから、他の機器に合わせたチューニングが可能です。

★理想的な音響特性を実現

バスレフ密閉式の新開発2ウェイスピーカーシステムを左右それぞれに配し(外部から見ると16cmウーハーをキャビネット下部に、8cmツイーターをキャビネット上部に取り付けた格好になっています)、重量感あふれる低音から繊細な高音まで、理想的なバランス性能を実現しました。特に、本体を壁面に近づけるほど低音が増す構造になっていますので、お好みにあわせてセットしてください。

★豊富なオーディオ端子

ライン入力端子に外部機器を2系統接続でき、ミックスして鳴らすことができます。またライン出力端子にも2系統接続でき、リバーブ(PF1200の場合はコーラス)効果をONにした時、ステレオで出力されるようになっています。そのうえ、ヘッドホンも接続することもできます。

★フットスイッチ端子を装備

フットスイッチを接続すると、ソフト効果やサステイン効果、キーホールド効果を足元でON/OFFすることが可能になります。

★MIDIコントロール

MIDI対応のキーボードです。外部MIDI機器を接続して両方の音を同時に鳴らしたり、音色切替を連動させるなど、様々なコントロールが可能です。

★専用椅子、専用キーボードカバーを別売で用意

専用の椅子、カバーを別売で用意しています。そして椅子のデザインは、特別にPF本体とトータルコーディネートしました。(23ページをご参照ください。)

目 次

| | |
|----------------|----|
| 仕様 | 2 |
| ご使用上の注意 | 3 |
| 各部の名称と働き | 4 |
| 接続 | 8 |
| 音を出してみよう(基本操作) | 9 |
| トランスポーズ | 10 |
| ピッチ変更 | 11 |

| | |
|---------------|----|
| フットコントロール | 12 |
| MIDIコントロール | 13 |
| MIDIデータフォーマット | 18 |
| 初期値について | 22 |
| オプション(別売) | 23 |
| サービスについて | 24 |

仕様

| | |
|-----------|--|
| 鍵盤 | 88鍵(A ₁ ~C ₇)イニシャルタッチ付き |
| 発音音域 | A ₁ ~C ₇ |
| 同時発音数 | 16音(後着優先) |
| 音源 | AWM(Advanced Wave Memory)音源 |
| 音色 | ピアノ I, ピアノ II, エレクトリックピアノ, ハープシコード, ビブラフォン |
| エフェクト | |
| PF1500 | デジタルリバーブ(ルーム/ステージ/ホール、デプススライダー付き) |
| PF1200 | ステレオコーラス |
| 設定 | |
| 全音色共通 | 電源ON/OFF, ボリューム, 音色選択*, ピッチ*, トランスポーズ*, スピーカーON/OFF, ソフト/キーホールド切替*, リバーブON/OFF* & デプス(PF1200はコーラスON/OFF) |
| フットコントロール | サスティンON/OFF*, ソフトON/OFF*, キーホールドON/OFF* |
| MIDI設定 | MIDI送信チャンネル*, MIDI受信チャンネル*, オムニON/OFF*, ローカルコントロールON/OFF*, プログラムチェンジ キャンセルON/OFF*, コントロールチェンジ キャンセルON/OFF*(*印は、POWERスイッチONのたびに初期化) |
| メインアンプ | 20W×2 |
| スピーカー | |
| ウーハー | 16cm×2 |
| ツイーター | 8cm×2 |

| | |
|-----------------------|--|
| 出力端子 | |
| OUTPUT I, II | モノラルホーンジャック, 規定出力レベル: -10dB, 最大出力レベル: +10dB, インピーダンス; 600Ω |
| PHONES | ステレオホーンジャック, |
| 入力端子 | |
| LINE INPUT I/MONO, II | モノラルホーンジャック 規定入力レベル; -10dB |
| MIDI端子 | MIDI IN, MIDI OUT, MIDI THRU |
| 電源 | AC100V, 50/60Hz |
| 消費電力 | 40W |
| 寸法(W×H×D) | 1470mm×210mm×470mm(本体のみ) |
| 重量 | 37kg(本体のみ) |
| 装備 | スライド式譜面板 |
| 付属品 | キーボードスタンド |

●0dB=0.775Vrms

●仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ご使用上の注意

◆設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど。
- 温度の特に低い場所。
- 湿気やホコリの多い場所。
- 振動の多い場所。

◆底部のスピーカーに注意

本機底部にはスピーカーが突起した格好になっています。このため本機を床などに直接置きますと、スピーカーに重量の負担がかかることになり、スピーカーを傷めることとなります。本機は、付属のキーボードスタンドを取り付けて使用されることを前提に設計しています。キーボードスタンドを使用しない時はスピーカーに負担がかからないように工夫してください。また、安定性にも十分な配慮が必要です。

◆無理な力を加えない

- キー、ツマミ、スイッチ、端子類に無理な力を加えないでください。
- 本機に寄りかかったり、上に乗らないでください。

◆電源について

- 本機は日本国内仕様です。必ず、AC100V(50Hzまたは60Hz)の電源コンセントに接続してください。AC100V以外の電源では絶対にご使用にならないでください。
- 大型ライトや大出力パワーアンプなど、消費電力の大きな機器と同じコンセントに接続しないでください。また、タコ足配線もお避けください。
- POWERスイッチは、送信機器側から順にONにしてください。MIDI接続に関しても同様です。
- 長時間ご使用にならない時は、電源コードのプラグを電源コンセントから外してください。

◆接続コードの取り外し

接続コードを外す時は、コードの断線やショートを防ぐため、コードを引っ張らないで必ずプラグ部分をもって引き抜いてください。

◆セットの移動

セットの移動は、接続コードのショートや断線を防ぐため、コードを取り外してから行ってください。

◆接続について

接続は、各機器の電源スイッチをOFFにしてから行ってください。

◆MIDIケーブルについて

- ケーブルはMIDI規格のものをご使用ください。
- ケーブルの長さは15mが限度とされています。これ以上長いケーブルをご使用になりますと、波形の劣化等によりトラブルの原因となりますので、ご注意ください。

◆ケースを開けない

故障や感電の原因となりますので、ケースを開けたり改造しないでください。

◆外装のお手入れについて

外装をベンジンやシンナー、揮発油等で拭いたり、近くでエアゾールタイプのスプレーを散布しないでください。外装のお手入れの際は、必ず柔らかい布で乾拭きしてください。なお、汚れのひどい時は、少し水で湿らせた布で拭いてください。

◆落雷に対する注意

落雷の恐れがある時は、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。

◆他の電気機器への影響について

本機はデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどを同時にご使用になりますと、ラジオやテレビ側で雑音などが生じることがあります。十分に離してご使用ください。

◆保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でもサービスが有償となることがあります。

◆保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです

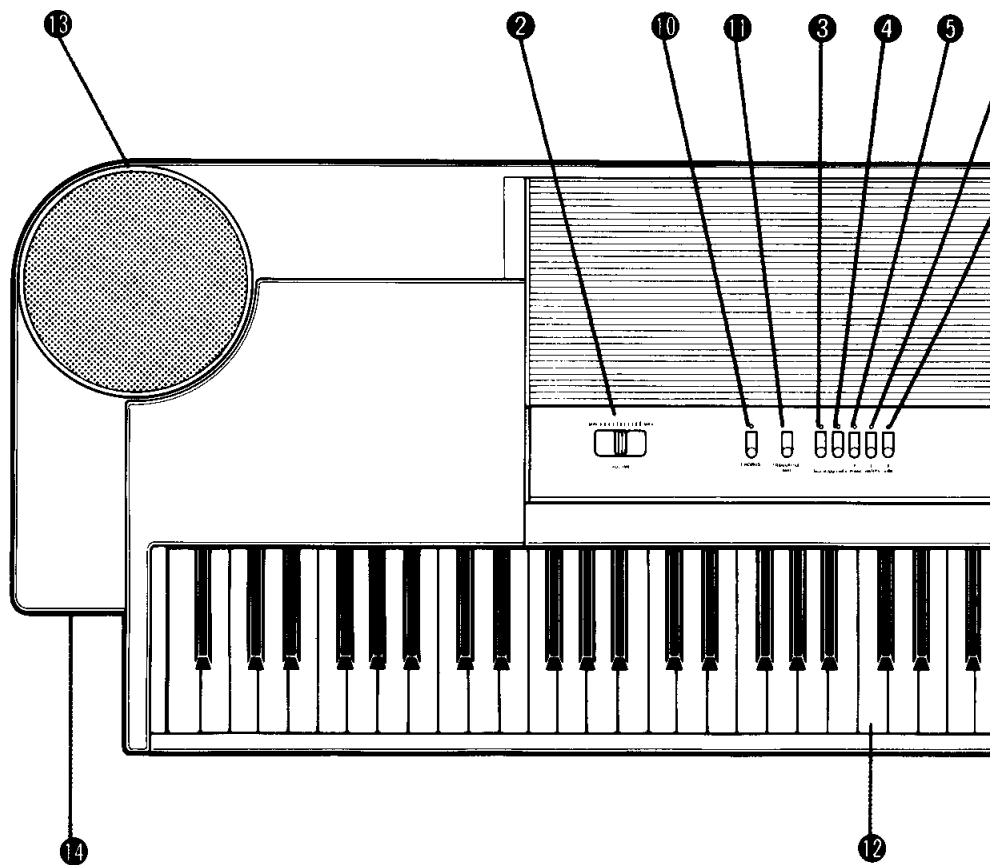
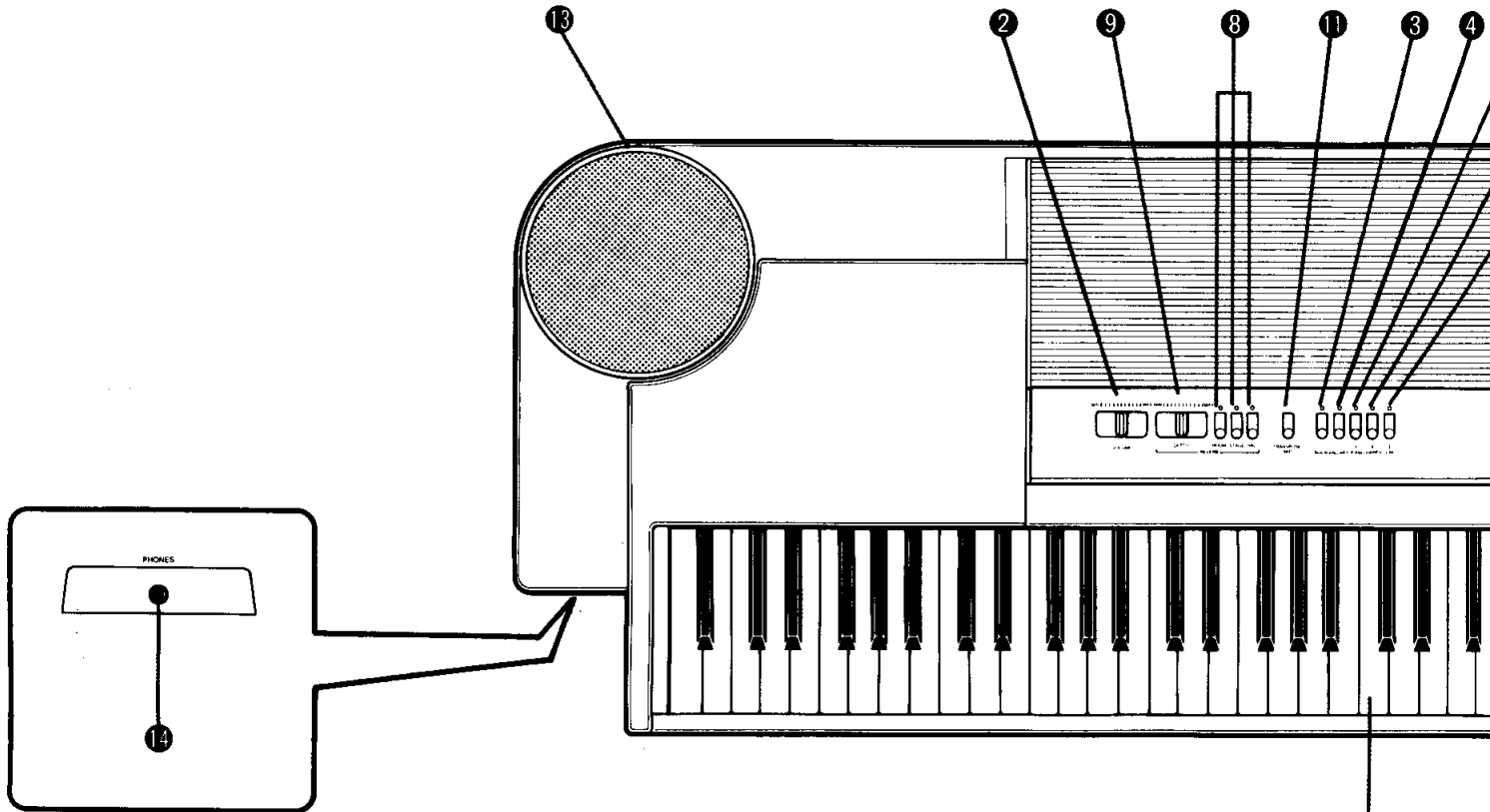
音楽を楽しむエチケット

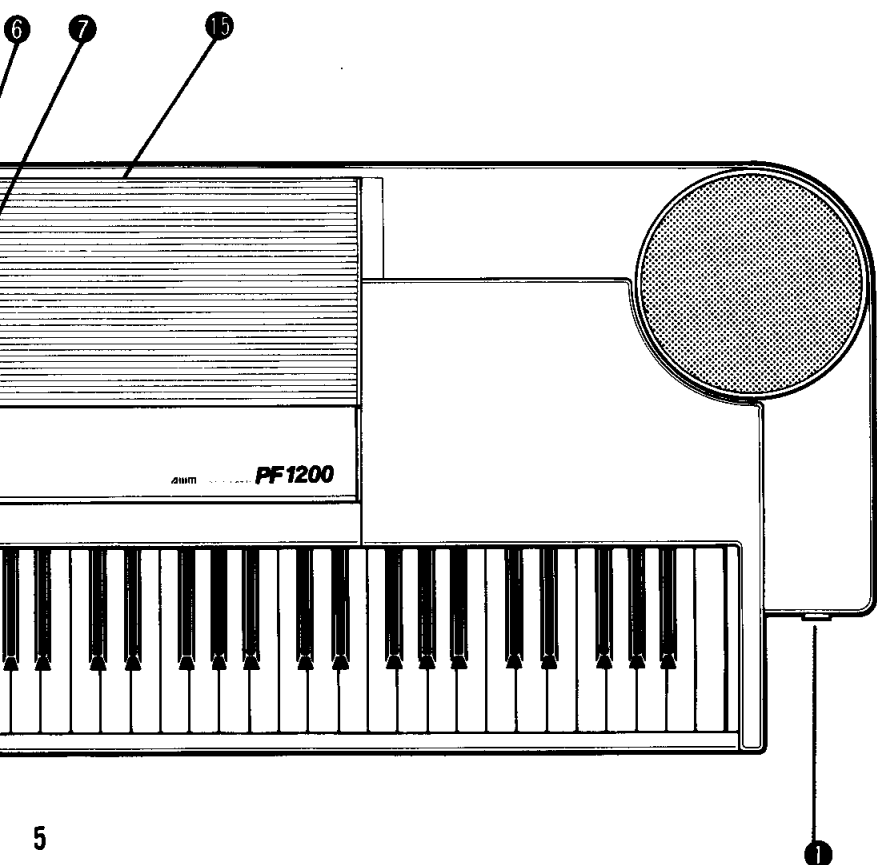
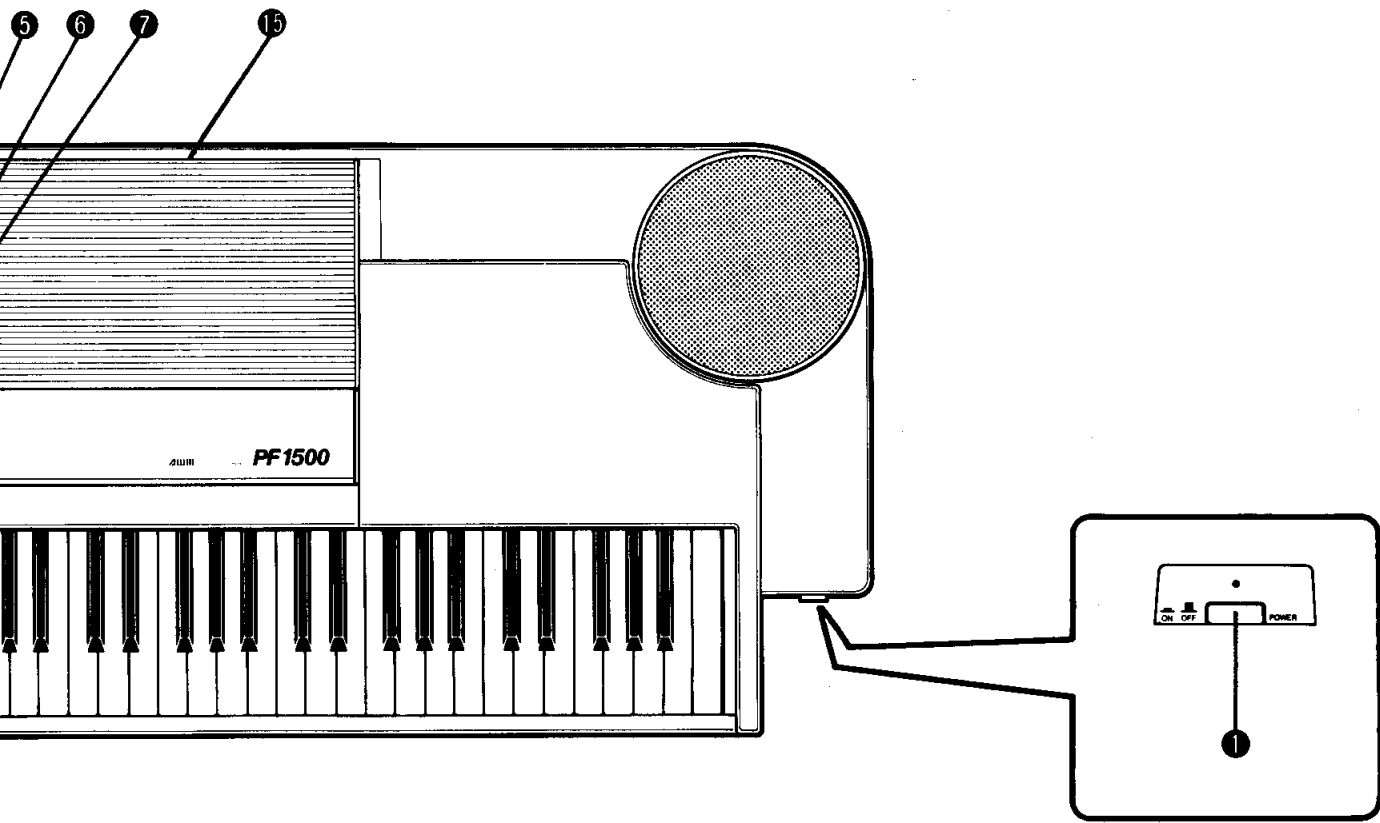
楽しい音楽も時と場所によっては大気気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するののも一つの方法です。音楽はみんなて楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

各部の名称と働き

●コントロールパネル

PF1500





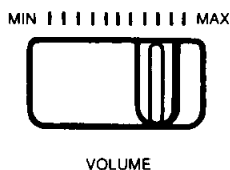
①POWERスイッチ

電源スイッチです。ONにすると、スイッチの上にあるインジケーターが点灯して、まず“PIANO I”の音色が呼び出されます。スイッチをONにした直後は、電源投入時のクリックノイズを避けるため保護回路が働き、音はでません。

②VOLUMEスライダー

内蔵スピーカーおよびヘッドホンの音量、リアパネルのOUTPUT端子への出力レベルをまとめて調節できます。“MAX”方向(右)へスライドさせるほど、音が大きくなります。

※OUTPUT端子にパワーアンプやアンプ内蔵スピーカーを接続して、外部スピーカーで鳴らす場合には、このスライダーを下図のようにセットしてから外部機器のボリュームを調節すると、ノイズの少ないクリアな音で演奏できます。



③PIANO I キー

このキーを押すと、ソフトなピアノの音で演奏できるようになります。

④PIANO II キー

このキーを押すと、明るいピアノの音で演奏できるようになります。

⑤E PIANOキー

このキーを押すと、エレクトリックピアノの音で演奏できるようになります。

⑥HARPSIキー

このキーを押すと、ハープシコードの音で演奏できるようになります。

⑦VIBEキー

このキーを押すと、ビブラフォンの音で演奏できるようになります。

⑧REVERBキー (PF1500のみ)

各リバーブ(残響)効果をON/OFFする時に押します。キーの上にあるインジケーターが点灯した状態がONの状態です。3種類ありますので、お好みの効果のボタンを押してください。

●ROOM

響きやすい部屋の中で弾いた時のような響きが得られます。

●STAGE

ステージの上で弾いた時のような響きが得られます。

●HALL

コンサートホールで弾いた時のような響きが得られます。
※ROOM、STAGE、HALLの順に拡がり感が強くなり、残響時間も長くなります。

⑨DEPTHスライダー (PF1500のみ)

リバーブ効果の深さを調節できます。“MAX”方向(右)へスライドさせるほど、残響のかかり具合が強くなります。

⑩CHORUSキー (PF1200のみ)

コーラス効果をON/OFFする時に押します。キーの上にあるインジケーターが点灯した状態がONの状態です。コーラス効果は、左右のスピーカーの間を複数の音が揺動くような効果です。

⑪TRANSPOSE/MIDIキー

トランスポーズ機能の設定やMIDI関係の設定をする時に押します。

⑫鍵盤

88鍵(A₋₁~C₇)の鍵盤で、16音までの同時発音(16音ポリフォニック)が可能です。鍵盤を叩く強さが表現されるイニシャルタッチ機能付です。

⑬内蔵スピーカー

8cmのツイーターです。主に高域を受け持ちます。なお、本機底部には16cmのウーファーがやはり左右に1つずつ取り付けられています。こちらは主に低域から中域を受け持ちます。ツイーター、ウーファー1セットで最大20W、つまり左20W+右20W出力の能力があります。

⑭PHONES端子

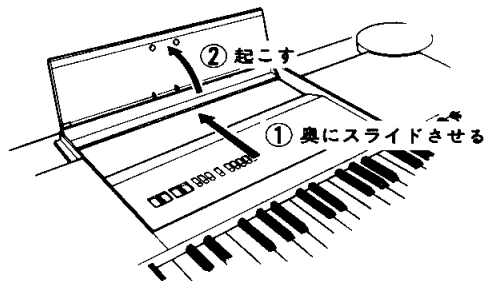
ヘッドホンを接続するための端子で、内蔵スピーカーの音と同じものをモニターできます。(ヘッドホンを接続すると、内蔵スピーカーから音が出なくなります。)なおステレオヘッドホンに接続すれば、リバーブ効果(PF1200はコーラス効果)をステレオの効果として聴くことができます。

※インピーダンス8Ω~150Ωのヘッドホンをご使用ください。

⑮ 譜面板

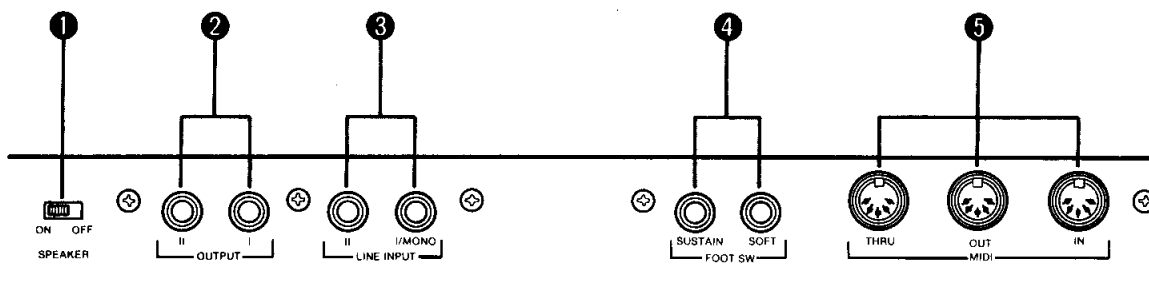
スライド式の譜面板で、本機を使用しない時はカバーの役目をします。(ホコリ等をさけるため、使用しない時は閉じた状態にしてください。)

譜面板の立て方/閉じ方



閉じる時は、逆の手順で行なってください。

● リアパネル



① SPEAKER ON/OFFスイッチ

内蔵スピーカーの出力をON/OFFするためのスイッチです。

通常は“ON”にしておきますが、OUTPUT端子に外部機器を接続した場合など、内蔵スピーカーの音が必要な時は“OFF”にしてください。

② OUTPUT端子

より大きな音を出したい場合や演奏内容をテープ等に録音する場合には、この端子を使います。パワーアンプやアンプ内蔵スピーカー、ミキサー等と接続してください。なお、この端子に直接スピーカーを接続しても音は鳴りません。※リバーブ効果(PF1200はコーラス効果)をONにして使用する場合には、ステレオの効果を得るため、LchおよびRch端子としてステレオ接続されることをお勧めします。なお、効果OFFの時は、両端子から同じ信号がモノラルで出力されます。

③ LINE INPUT端子

リズムマシンやカセットデッキ、トーンジェネレーター、キーボード等の音を、本機の音と一しょに本機の内蔵スピーカーで鳴らす場合に使用します。

※外部機器の音量は、外部機器自身のボリュームで本機の音量とバランスを調整したうえで、本機のVOLUMEスライダーで全体の音量をコントロールしてください。

※モノラル出力の機器を接続する場合は、I/MONO端子に接続してください。

※PHONES端子やOUTPUT端子からも、外部機器の音が出力されます。

※外部機器の音にも、本機自身の音と一しょにリバーブ効果(PF1200はコーラス効果)がかかります。

④ FOOT SW端子

●SUSTAIN……

付属のキーボードスタンドから出ているケーブルの黒色のプラグを差し込みます。接続により、キーボードスタンドのサスティンペダル(右側のペダル)で、サスティン効果をON/OFFすることが可能になります。サスティンペダルを踏むと効果がONになり、全ての音に余韻がつきます。サスティンペダルを離すと効果がOFFになり、余韻がつかなくなります。

※別売のフットスイッチFC4またはFC5、FC8でも効果をON/OFFすることができます。ただし、FC8でもハーフペダル効果は得られません。

※フットスイッチを接続して操作することにより、効果が得られます。

●SOFT……

付属のキーボードスタンドから出ているケーブルの灰色のプラグを差し込みます。接続により、キーボードスタンドのソフトペダル(左側のペダル)で、ソフト効果またはキーホールド効果をON/OFFすることが可能になります。どちらの効果を使うか、自分で選択できます(選択の方法は12ページに記載)。どちらを選んだ場合もペダルを踏むと効果がONになり、離すとOFFになります。
ソフト効果：ソフトペダルを踏むとONになり、柔らかい音で演奏できます。また、離すとOFFになり、ノーマルな音に戻ります。

キーホールド効果：鍵盤を押している間にソフトペダルを踏むと、その鍵盤の音にだけキーホールド効果がかかり、余韻がつきます。余韻の長さは、ペダルを踏んでいる時間でコントロールでき、ペダルを離すと余韻が消えます。別の音に効果をかけようとする場合は、ペダルを一度離し、打鍵後再び踏みなおしてください。

※別売のフットスイッチFC4またはFC5、FC8でも効果をON/OFFすることができます。

※フットスイッチを接続して操作することにより、効果が得られます。

※キーホールド効果を使い、本機の最大同時発音数である16音を全てキーホールドした場合は、ペダルを離すまで別の音はできません。また、たとえば4音をキーホールドした場合は、残り12音が同時発音数となります。

⑤MIDI端子

●MIDI OUT

本機の演奏内容をMIDIシーケンサーに記録したり、シンセサイザーやトーンジェネレーターなどのMIDI機器を本機と同時に発音させる場合に使用する端子です。外部機器のMIDI IN端子と接続してください。

●MIDI IN

MIDIシーケンサーに記録した演奏内容を本機で発音させたり、外部キーボードでの演奏内容を本機で発音させる場合に使用する端子です。外部機器のMIDI OUT端子と接続してください。

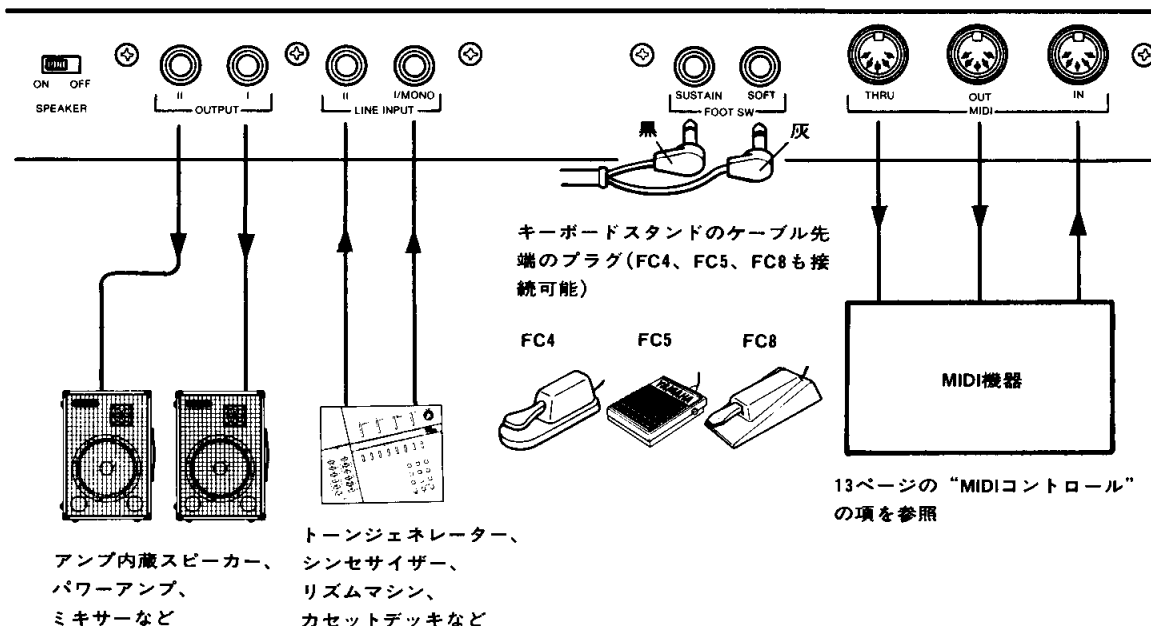
●MIDI THRU

MIDI IN端子で受けた外部MIDI機器からの信号を、そのまま出力する端子です。受信した信号と同じものをもう1台のMIDI機器に送りたい場合には、この端子とその機器のMIDI IN端子を接続してください。

※MIDI接続する場合には、別売のMIDIケーブルをご用意ください。

キーボードスタンドの組み立て方法につきましては、キーボードスタンドに付属している組立説明書をご覧ください。

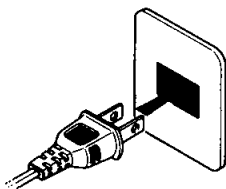
接続



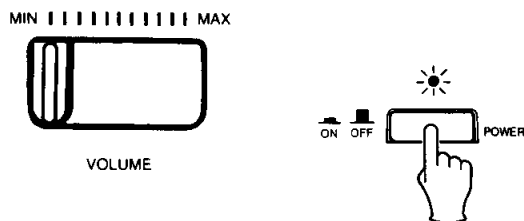
音を出してみよう

ここでは、音を出すまでの本機の基本的な操作手順を説明します。

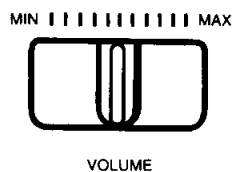
1. 本機および接続する機器のPOWERスイッチを、全てOFFにします。
2. 電源コードをコンセントに差し込みます。



3. LINE INPUT端子に何らかの機器を接続した場合には、その機器の電源スイッチをONにします。
4. VOLUMEスライダーが“MIN”になっていることを確認したうえで、本機のPOWERスイッチをONにします。すると、自動的に“PIANO I”の音色が呼び出されます。



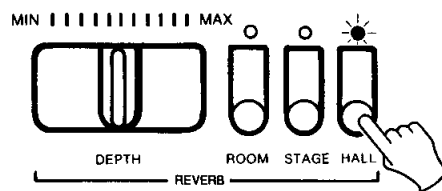
7. 音量を調節します。



8. 演奏してみましょう。選択した音色で鳴ります。

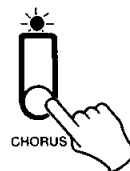
9. お好みにより、リバーブ効果 (PF1200はコーラス効果) をONまたはOFFにします。

PF1500



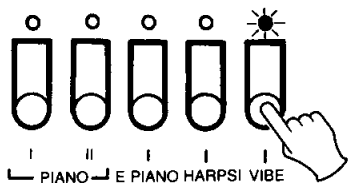
好みの効果を選びます。選んだ効果のキー上のインジケーターが点灯して、その効果がかかります。(点灯後、もう一度押すと効果がOFFになります。)
効果の深さ(強さ)を調整したい時は、DEPTHスライダーで行ないます。“MAX”で最も深くかかり、“MIN”ではOFFと同じ状態になります。

PF1200



押してキー上のインジケーターを点灯させると、効果がかかります。(点灯後、もう一度押すと効果がOFFになります。)

5. OUTPUT端子に何らかの機器を接続した場合には、その機器の電源スイッチをONにします。
6. 音色を選びます。選んだ音色キー上のインジケーターが点灯します。

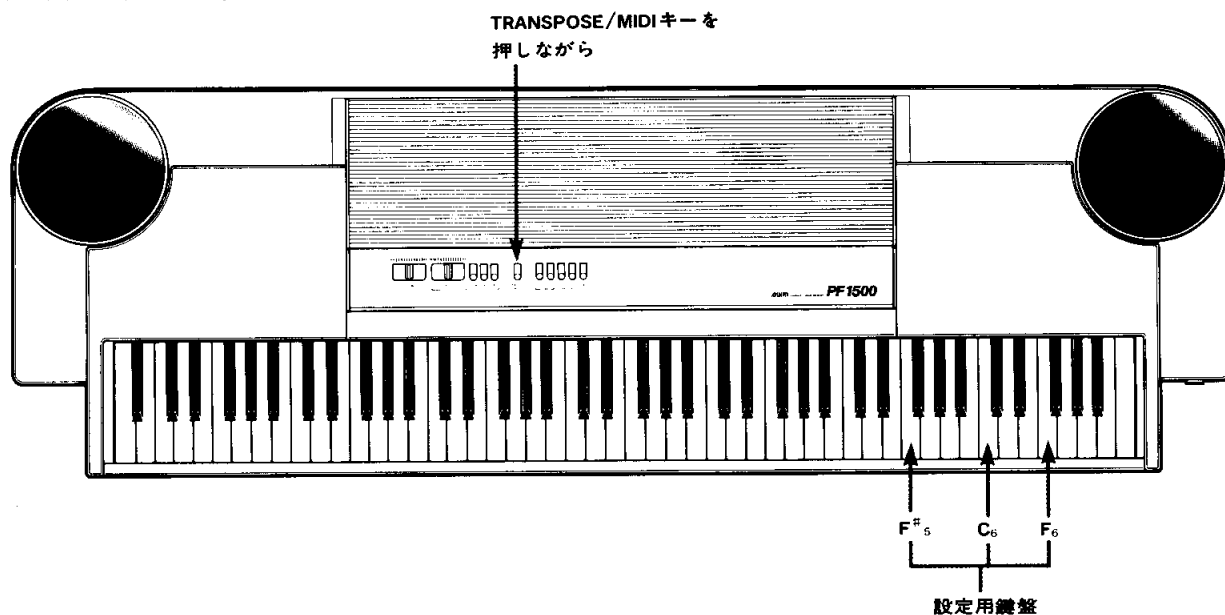


トランスポーズ

押した鍵盤と実際に発音される音の音程をずらす機能です。この機能を使えば、弾き方を変えずに簡単に移調することができます。歌の伴奏をする時、簡単に歌う人の声の高さにキーを合わせることができます。半音ステップ、1オクターブの範囲で移調できます。

設定方法

TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、 $F^{\#}_5$ ～ F_6 の範囲の該当する鍵盤を押します。



※移調を解除する時には、TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら C_6 の鍵盤を押して移調量を“0”に戻すか、またはPOWERスイッチを一度OFFにしてから、ONしなおしてください。移調が自動的に解除されます。

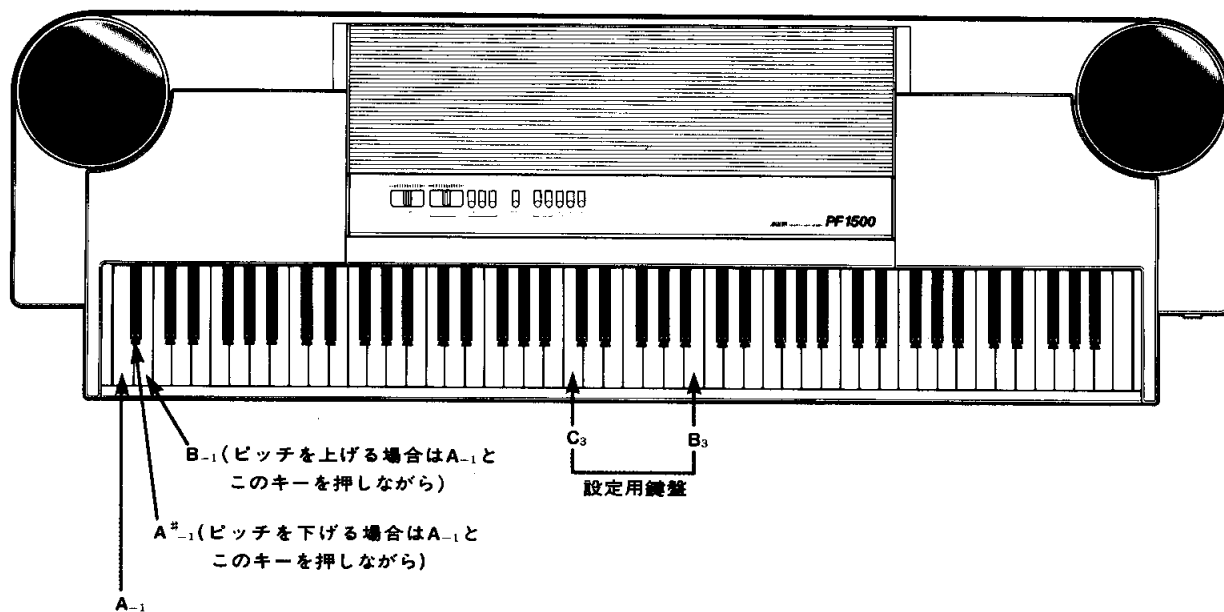
ピッチ変更

本機を他の楽器にあわせてチューニングできます。440Hzを基準にして、3セント(100セント=半音)ステップ、±51セントの範囲でピッチ(音程)変更できます。外部機器の音と本機の音を両方出して耳で聴いてチューニングするか、またはチューニングメーターや音叉を使用してチューニングしてください。

設定方法

ピッチを上げる場合：最低音側の白鍵2つ(A₋₁とB₋₁)を両方押しながら、C₃～B₃のいずれかを必要回数押します。1回押すごとに、ピッチが約3セントずつ上がります。

ピッチを下げる場合：最低音側の白鍵1つ(A₋₁)と黒鍵1つ(A[#]₋₁)を両方押しながら、C₃～B₃のいずれかを必要回数押します。1回押すごとに、ピッチが約3セントずつ下がります。



※基準のピッチに戻す時には、設定値を基準値に戻すか、またはPOWERスイッチを一度OFFにしてから、ONしなおしてください。基準のピッチに戻ります。

フットコントロール

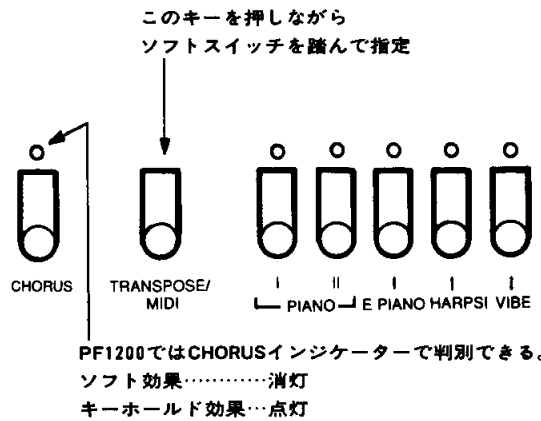
フットスイッチをリアパネルの各端子に接続することにより、各機能を足元でON/OFFできます。

なお、SOFT端子に接続したソフトスイッチで、ソフト効果とキーホールド効果のどちらをコントロール(ON/OFF)するか、次の要領で決めることができます。ただし、POWERスイッチをONにしてから設定を変えていなければ、必ずソフト効果をコントロールできるようになっています。

ソフト効果⇄キーホールド効果の切替

TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、SOFT端子に接続したソフトスイッチを踏みます。踏むたびに、切り替えが繰り返されます。

なおPF1200では、切り替えてどちらの状態になったか、切り替え時に視覚的に判別できます。CHORUSキー上のインジケータが消灯した状態がソフト効果、点灯した状態がキーホールド効果です。

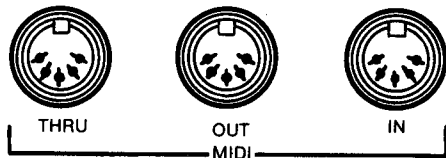


※POWERスイッチを一度OFFにしてからONしなおすことによっても、ソフト効果をコントロールできる状態に戻すことができます。

MIDIコントロール

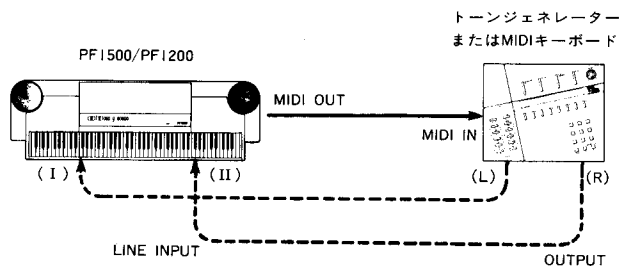
本機は、MIDI (Musical Instrument Digital Interface) 規格のキーボードのため、他のMIDI機器を接続した時、様々なコントロールが可能になります。接続には15m以内のMIDIケーブルをご用意になり、本機のMIDI端子と、他の機器のMIDI端子を接続してください。なお、接続する機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

—— 本機のMIDI端子 ——



MIDI OUT端子を使ってできること

■MIDIキーボードまたはトーンジェネレーターの接続例

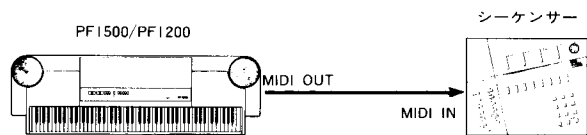


- ★本機で演奏すると、接続した機器も同時に鳴ります。音色を組み合わせることができ、音に厚みがつきます。
- ★本機で音色を切り替えると、接続した機器の音色も同時に切り替わります。
 - PIANO I キーを押すと……………外部機器の音色が音色ナンバー1になる。
 - PIANO II キーを押すと……………外部機器の音色が音色ナンバー2になる。
 - E PIANOキーを押すと……………外部機器の音色が音色ナンバー3になる。
 - HARPSIキーを押すと……………外部機器の音色が音色ナンバー4になる。
 - VIBEキーを押すと……………外部機器の音色が音色ナンバー5になる。
- ★本機でフットスイッチ操作をすると、操作結果が送信される。(外部機器側でデータを受けつけるかどうかは、その機器の仕様および設定により決まります。)

あらかじめ必要な操作

- 本機のMIDI送信チャンネルと、外部機器のMIDI受信チャンネルを一致させるか、または外部機器をオムニONの状態にします。(P.15参照)
- 音色切替を連動させる場合には、本機のプログラムチェンジキャンセルの設定をOFFの状態にしておきます。(P.17参照)
- フットスイッチによるON/OFF操作を連動させる場合には、本機のコントロールチェンジキャンセルの設定をOFFの状態にしておきます。(P.17参照)

■シーケンサーの接続例



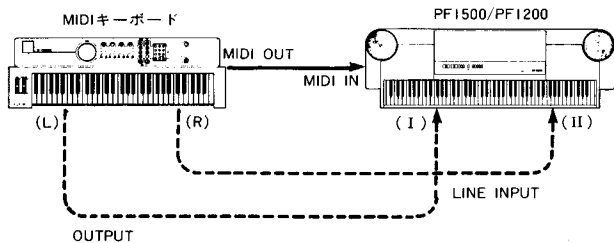
- ★本機の演奏内容を、デジタル信号のままシーケンサーに記録できます。演奏の時にミスしても、その部分だけを修正することも可能です。そしてシーケンサーの再生の時、演奏時と異なった音色で鳴らすこともできます。
- ★音色を切り替えると、プログラムチェンジナンバー1~5が出力されます。(ただし、シーケンサーに記録されるかどうかは、シーケンサーの仕様および設定により決まります。)
- ★本機でフットスイッチ操作をすると、操作結果が送信される。(外部機器側でデータを受けつけるかどうかは、その機器の仕様および設定により決まります。)

あらかじめ必要な操作

- 本機のMIDI送信チャンネルと、外部機器のMIDI受信チャンネルを一致させます。(P.15参照)
- 音色切替のメッセージも記録させる場合には、本機のプログラムチェンジキャンセルの設定をOFFの状態にしておきます。(P.17参照)
- 各フットスイッチのON/OFFのメッセージも記録させる場合には、本機のコントロールチェンジキャンセルの設定をOFFの状態にしておきます。(P.17参照)

MIDI IN端子を使ってできること

■MIDIキーボードとの接続例



★外部キーボードを演奏すると、本機も同時に鳴ります。

★外部キーボードの音色を音色ナンバー1~5の範囲で切り替えた場合、本機の音色も同時に切り替わります。

- 外部機器を音色ナンバー1にすると……

PIANO Iの音色になる。



- 外部機器を音色ナンバー5にすると……

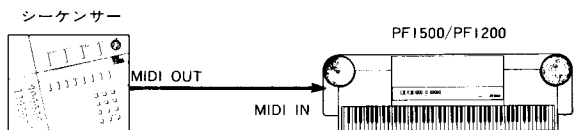
VIBEの音色になる。

★外部キーボードで本機と同内容のフットスイッチの操作をすると、本機のフットスイッチの設定が対応します。

あらかじめ必要な操作

- 外部キーボードのMIDI送信チャンネルと、本機のMIDI受信チャンネルを一致させるか、または本機をオムニONの状態にします。(P.15, P.16参照)
- 音色切替を連動させる場合には、本機のプログラムチェンジキャンセルの設定をOFFの状態にしておきます。(P.17参照)
- フットスイッチのON/OFF操作を連動させる場合には、本機のコントロールチェンジキャンセルの設定をOFFの状態にしておきます。(P.17参照)

■シーケンサーとの接続例



★シーケンサーに記録済みの演奏データを、本機の音色で再生できます。

★シーケンサーから音色ナンバー1~5のメッセージが送られてくると、本機の音色が切り替わります。

- 音色ナンバー1が送られてくると……

PIANO Iの音色になる。



- 音色ナンバー5が送られてくると……

VIBEの音色になる。

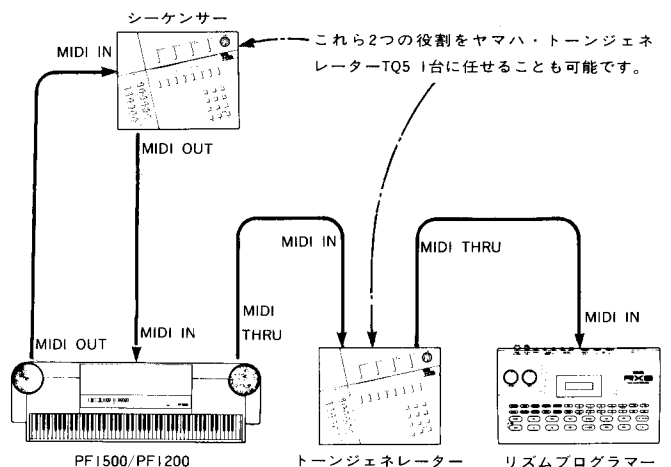
★シーケンサーから本機と同内容のフットスイッチのメッセージが送られてくると、本機のフットスイッチの設定が対応します。

あらかじめ必要な操作

- シーケンサーのMIDI送信チャンネルと、本機のMIDI受信チャンネルを一致させるか、または本機をオムニONの状態にします。(P.15, P.16参照)
- 音色切替のメッセージも受け付ける場合には、本機のプログラムチェンジキャンセルの設定をOFFの状態にしておきます。(P.17参照)
- 各フットスイッチのON/OFFのメッセージも受け付ける場合には、本機のコントロールチェンジキャンセルの設定をOFFの状態にしておきます。(P.17参照)

MIDI THRU端子を使ってできること

MIDI THRU端子からは、本機のMIDI IN端子で受けた信号がそのまま出力されます。MIDI THRU端子は、次のようなシステム接続をする場合に便利です。



本システムは、シーケンサーを再生させて本機およびトーンジェネレーターを鳴らし、リズムプログラマーのドラム音を同期させるものです。

MIDI送信チャンネル、受信チャンネルの設定

MIDI送信チャンネルおよび受信チャンネルは、次の要領で1チャンネル～16チャンネルの範囲で自由に設定できます。

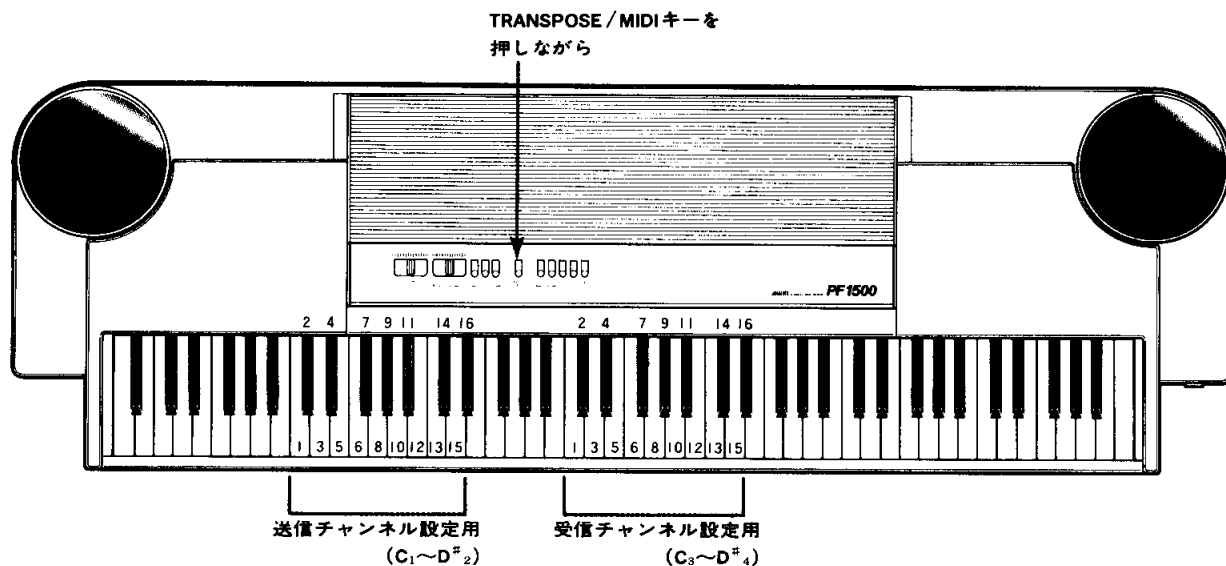
設定方法

MIDI送信チャンネルの設定：

TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、 $C_1 \sim D^{\#}_2$ の範囲の該当する鍵盤を押します。

MIDI受信チャンネルの設定：

TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、 $C_3 \sim D^{\#}_4$ の範囲の該当する鍵盤を押します。



※チャンネル1の状態に戻す時は、設定しなおすか、またはPOWERスイッチを一度OFFにしてから、ONしなおしてください。POWERスイッチをONにするたび、送信チャンネル、受信チャンネル共に設定が1チャンネルに戻ります。

オムニON/OFFの切り替え

オムニON/OFFの切り替えは、次の要領で行えます。なお、オムニONを指定するとMIDI受信チャンネルを無視して、どのチャンネルのメッセージでも受信するようになります。

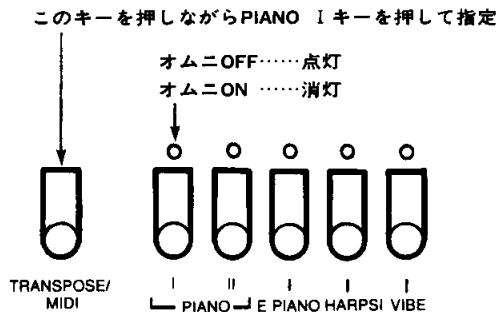
設定方法

オムニOFFを指定する場合：

TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、PIANO Iキーを押して、PIANO Iキー上のインジケータを点灯させる。

オムニONを指定する場合：

TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、PIANO Iキーを押して、PIANO Iキー上のインジケータを消灯させる。



※オムニONの状態に戻す時は、設定しなおすか、またはPOWERスイッチを一度OFFにしてから、ONしなおしてください。

POWERスイッチをONにするたび、設定がオムニONに戻ります。

ローカルコントロールON/OFFの切り替え

ローカルコントロールON/OFFの切り替えは、次の要領で行えます。なお、ローカルコントロールOFFを指定すると本機の音源部が鍵盤部と切り離され、本機の音源では発音されなくなります。この機能は、本機の発音機能を停止させ、本機での演奏内容を外部キーボードやトーンジェネレーター側だけで発音させる場合に便利です。

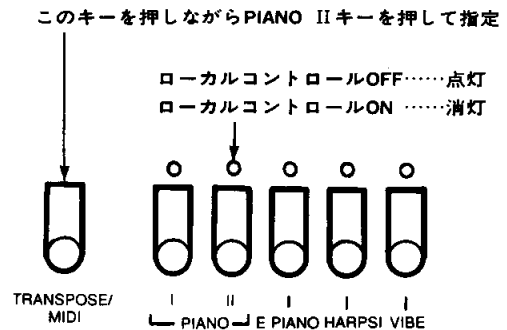
設定方法

ローカルコントロールOFFを指定する場合：

TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、PIANO IIキーを押して、PIANO IIキー上のインジケータを点灯させる。

ローカルコントロールONを指定する場合：

TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、PIANO IIキーを押して、PIANO IIキー上のインジケータを消灯させる。



※ローカルコントロールONの状態に戻す時は、設定しなおすか、またはPOWERスイッチを一度OFFにしてから、ONしなおしてください。POWERスイッチをONにするたび、設定がローカルコントロールONに戻ります。

※ローカルコントロールOFFを指定しても、外部MIDI機器からのメッセージは受信し、普通どおり発音します。

プログラムチェンジキャンセルON/OFFの切り替え

プログラムチェンジキャンセルON/OFFの切り替えは、次の要領で行えます。なお、プログラムチェンジキャンセルONを指定すると、音色切り替えを外部MIDI機器と連動させることが、送信、受信共にできなくなります。この機能は、音色切り替えをあえて連動させなくするための機能です。

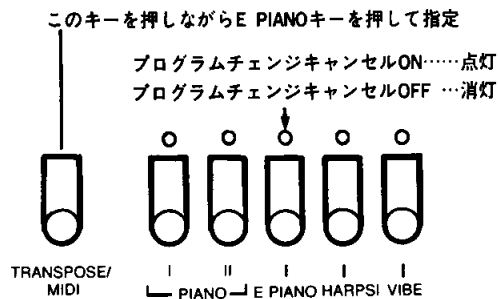
設定方法

プログラムチェンジキャンセルONを指定する場合：

TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、E PIANOキーを押して、E PIANOキー上のインジケータを点灯させる。

プログラムチェンジキャンセルOFFを指定する場合：

TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、E PIANOキーを押して、E PIANOキー上のインジケータを消灯させる。



※プログラムチェンジキャンセルOFFの状態に戻す時は、設定しなおすか、またはPOWERスイッチを一度OFFにしてから、ONしなおしてください。POWERスイッチをONにするたび、設定がプログラムチェンジキャンセルOFFに戻ります。

コントロールチェンジキャンセルON/OFFの切り替え

コントロールチェンジキャンセルON/OFFの切り替えは、次の要領で行えます。なお、コントロールチェンジキャンセルONを指定すると、フットスイッチ操作を外部MIDI機器と連動させることが、送信、受信共にできなくなります。この機能は、フットスイッチによる各効果のON/OFFをあえて連動させなくするための機能です。

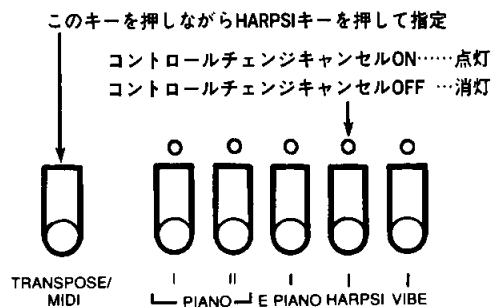
設定方法

コントロールチェンジキャンセルONを指定する場合：

TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、HARPSIキーを押して、HARPSIキー上のインジケータを点灯させる。

コントロールチェンジキャンセルOFFを指定する場合：

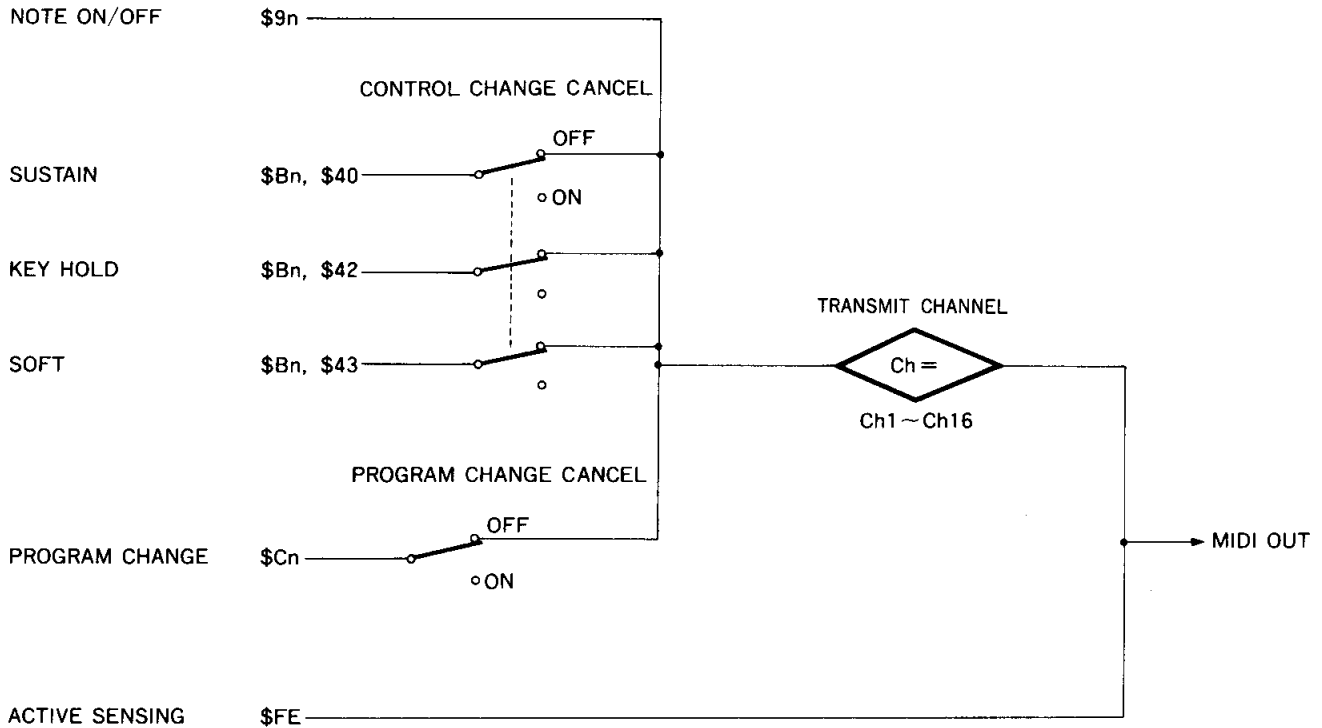
TRANSPOSE/MIDIキーを押しながら、HARPSIキーを押して、HARPSIキー上のインジケータを消灯させる。



※コントロールチェンジキャンセルOFFの状態に戻す時は、設定しなおすか、またはPOWERスイッチを一度OFFにしてから、ONしなおしてください。POWERスイッチをONにするたび、設定がコントロールチェンジキャンセルOFFに戻ります。

MIDIデータフォーマット

1. 送信条件



2. 送信データ

アクティブセンシング以外のメッセージは、設定したMIDI送信チャンネルで送信可能です。なおMIDI THRU端子からは、受信したメッセージがそのまま送り出されま

②コントロールチェンジ

フットスイッチを踏んだ時と離れた時に送信します。3種類のメッセージを送信可能です。ただし、コントロールチェンジキャンセルがOFF状態であることが条件です。

ステータス $1011nnnn(BnH)$ $n=0(\text{チャンネルナンバー}1)\sim 15(\text{チャンネルナンバー}16)$

コントロールNo $0ccccccc$
 コントロール値 $0vvvvvvvv$

| コントロールNo | コントロール値 |
|---------------|----------------------|
| c=64 SUSTAIN | v=0(OFF), 127(ON) |
| c=66 KEY HOLD | v=0(OFF), 127(ON) |
| c=67 SOFT | v=0(OFF), 127(ON) |

2-1 チャンネルインフォメーション

1) チャンネルボイスメッセージ

①キーオン/オフ

鍵盤を押した時と離れた時に送信します。

ステータス $1001nnnn(9nH)$ $n=0(\text{チャンネルナンバー}1)\sim 15(\text{チャンネルナンバー}16)$

ノートNo $0kkkkkkkk$ $k=21(A_{-1})\sim 108(C_7)$

ベロシティ $0vvvvvvvv$ $v=0\sim 127$
 (1~127: キーオン,
 0: キーオフ)

③プログラムチェンジ

音色を切り替えた時、またはプログラムチェンジダンプリクエストを受信した時に送信します。ただし、プログラムチェンジキャンセルがOFF状態であることが条件です。

ステータス 1100nnnn(CnH) n=0(チャンネルナンバー1)~15(チャンネルナンバー16)

プログラムNo 0ppppppp p=0(PIANO I),
1(PIANO II),
2(EPIANO),
3(HARPS I),
4(VIBE)

2-2 システムインフォメーション

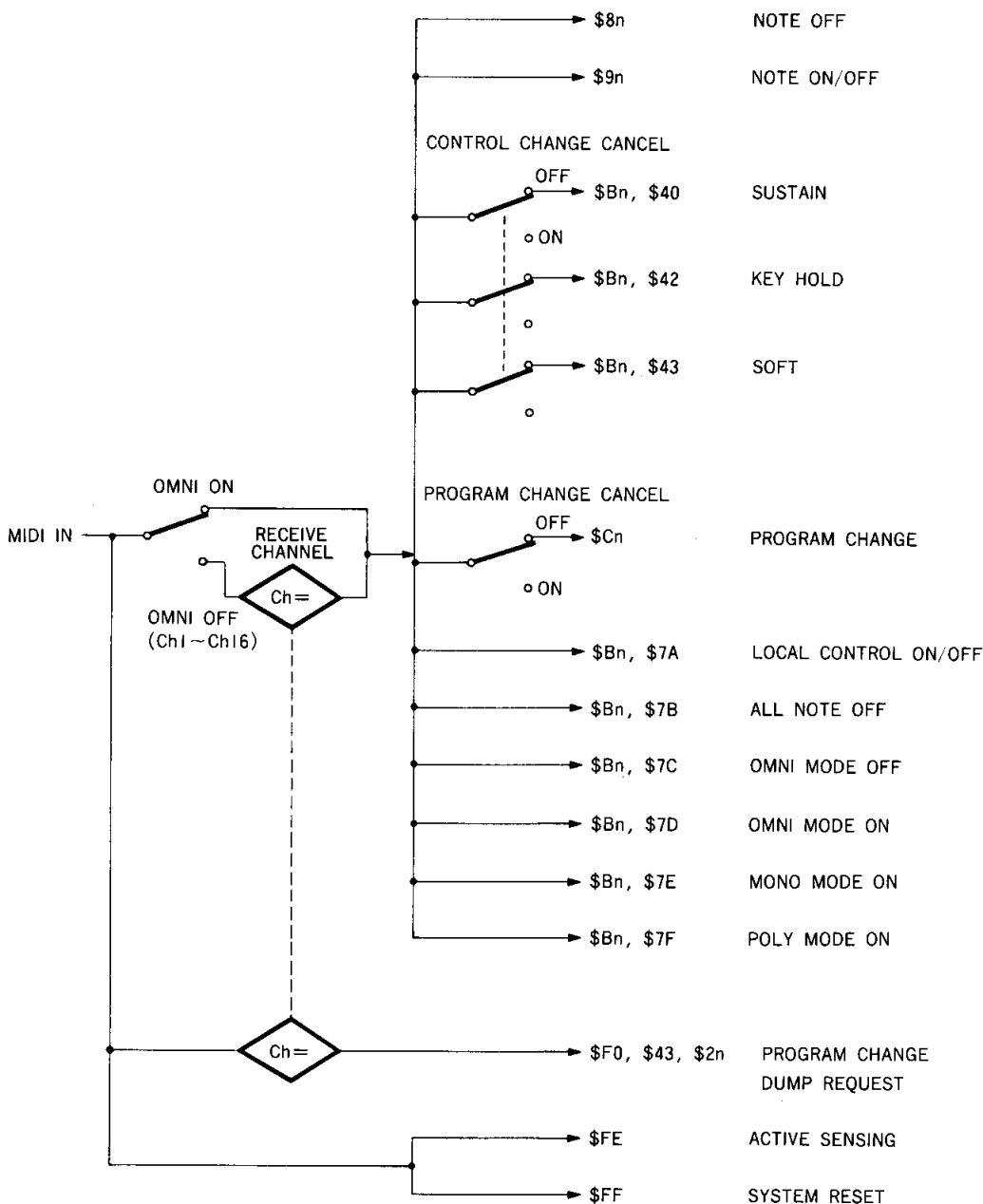
1) システムリアルタイムメッセージ

①アクティブセンシング

約200msecに1回送信します。

ステータス 1111110(FEH)

3. 受信条件



4. 受信データ

アクティブセンシングおよびシステムリセット以外のメッセージは、設定したMIDI受信チャンネルで受信可能です。なおMIDI THRU端子からは、受信したメッセージがそのまま送り出されます。

4-1 チャンネルインフォメーション

1) チャンネルボイスメッセージ

①キーオフ

ノートオフを8nHで送る機器との対応のためです。

```
ステータス  1 0 0 0 n n n n (8 n H)  n=0(チャンネルナンバー1)~
                                                    1 5(チャンネルナンバー
                                                    1 6)
ノートNo.   0 k k k k k k k k      k=2 1(A 1)~1 0 8(C 7)
ベロシティ   0 v v v v v v v v      v=無視
```

②キーオン/オフ

ノートNo.によって発音の音程が変わり、ベロシティによって発音の音量および音色が変わります。

```
ステータス  1 0 0 1 n n n n (9 n H)  n=0(チャンネルナンバー1)~
                                                    1 5(チャンネルナンバー
                                                    1 6)
ノートNo.   0 k k k k k k k k      k=2 1(A 1)~1 0 8(C 7)
ベロシティ   0 v v v v v v v v      v=0~1 2 7
                                                    (1~1 2 7:キーオン、
                                                    0:キーオフ)
```

③コントロールチェンジ

3種類のメッセージを受信可能です。ただし、コントロールチェンジキャンセルがOFF状態であることが条件です。

```
ステータス  1 0 1 1 n n n n (B n H)  n=0(チャンネルナンバー1)~
                                                    1 5(チャンネルナンバー
                                                    1 6)
```

```
コントロールNo. 0 c c c c c c c c
コントロール値  0 v v v v v v v v
```

| | |
|-----------------|-----------------------|
| コントロールNo. | コントロール値 |
| c=64 SUSTAIN | v=0(OFF) 1 2 7(ON) |
| c=66 KEY HOLD | v=0(OFF) 1 2 7(ON) |
| c=67 SOFT PEDAL | v=0(OFF) 1 2 7(ON) |

④プログラムチェンジ

プログラムNo.によって音色が決まります。

```
ステータス  1 1 0 0 n n n n (C n H)  n=0(チャンネルナンバー1)~
                                                    1 5(チャンネルナンバー
                                                    1 6)
プログラムNo. 0 p p p p p p p p      p=0(PIANO I),
                                                    1(PIANO II),
                                                    2(E PIANO),
                                                    3(HARPS I),
                                                    4(V I B E),
                                                    5~1 2 7(無視)
```

2) チャンネルモードメッセージ

```
ステータス  1 0 1 1 n n n n (B n H)  n=0(チャンネルナンバー1)~
                                                    1 5(チャンネルナンバー
                                                    1 6)
```

```
コントロールNo. 0 c c c c c c c c
コントロール値  0 v v v v v v v v
```

| | |
|------------------------------|---|
| コントロールNo. | コントロール値 |
| c=1 2 2 LOCAL CONTROL ON/OFF | V=0(OFF) (受信すると、ローカルコントロールの設定がON、 またはOFFになります。) 1 2 7(ON) |
| c=1 2 3 ALL NOTE OFF | V=0 (受信すると、全ての鍵盤が離されたときのみなします。) |
| c=1 2 4 OMNI OFF | V=0 (受信するとオムニオフになります。) |
| c=1 2 5 OMNI ON | V=0 (受信するとオムニオンになります。) |
| c=1 2 6 MONO MODE ON | V=0 (受信するとモノモード=単音でのみ演奏できるモード になります。) |
| c=1 2 7 POLY MODE ON | V=0 (受信するとポリモード=複音で演奏できるモードに なります。) |

4-2 システムインフォメーション

1) システムリアルタイムメッセージ

①アクティブセンシング

受信すると、センシングを開始します。その後400msec以上の間ステータスもデータもこない時には、MIDI受信バッファをクリアし、発音を強制的に停止させます。

```
ステータス  1 1 1 1 1 1 1 0 (F E H)
```

②システムリセット

受信すると、MIDI関係の設定が初期化されると共に、ALL NOTE OFF処理します。

```
ステータス  1 1 1 1 1 1 1 1 (F F H)
```

— 初期化の内容 —

| | |
|-----------------------|-----|
| OMNI | ON |
| LOCAL | ON |
| PROGRAM CHANGE CANCEL | OFF |
| CONTROL CHANGE CANCEL | OFF |

2) システムエクスクルーシブメッセージ

①プログラムチェンジダンプリクエスト

受信すると、MIDI OUT端子からプログラムチェンジメッセージをバルクアウトします。

```
ステータス  1 1 1 1 0 0 0 0 (F 0 H)  システムエクスクルーシブ
ID No.      0 1 0 0 0 0 1 1 (4 3 H)  YAMAHA
サブステータス 0 0 1 0 n n n n (2 n H)  n=0(チャンネルナンバー1)~
                                                    1 5(チャンネルナンバー
                                                    1 6)
フォーマットNo. 0 1 1 1 1 0 0 (7 C H)  ユニバーサルバルクダンプリクエスト
EOX        1 1 1 1 0 1 1 1 (F 7 H)
```

| Function ... | Transmitted | Recognized | Remarks |
|--------------------------|----------------------------|--------------------------|-----------------------------------|
| Basic Default | : 1 | : 1 | |
| Channel Changed | : 1 - 16 | : 1 - 16 | |
| Mode Default | : 3 | : 1 | |
| Mode Messages | : x | : Omni, Mono/Poly | |
| Mode Altered | : ***** | : x | |
| Note Number : True voice | : 21 - 108 : ***** | : 21 - 108 : 21 - 108 | |
| Velocity Note ON | : o 90H, v=1-127 | : o v=1-127 | |
| Velocity Note OFF | : x 90H, v=0 | : x | |
| After Touch | : x | : x | |
| Key's Ch's | : x | : x | |
| Pitch Bender | : x | : x | |
| Control Change | 64 : o 66 : o 67 : o | : o : o : o | Sustain Key hold Soft pedal |
| Prog Change : True # | : o 0 - 4 : ***** | : o 0 - 127 : 0 - 4 | |
| System Exclusive | : x | : o | |
| System : Song Pos | : x | : x | |
| System : Song Sel | : x | : x | |
| Common : Tune | : x | : x | |
| System : Clock | : x | : x | |
| Real Time : Commands | : x | : x | |
| Aux : Local ON/OFF | : x | : o | |
| Aux : All Notes OFF | : x | : o (122-127) | |
| Mes- : Active Sense | : o | : o | |
| sages:Reset | : x | : o | |
| Notes | | | |

初期値について

POWERスイッチをONにするたびに、各設定値は次のように初期化されます。

| | |
|-----------------------|---------|
| トランスポーズ | 0 |
| ピッチ (A ₃) | 440Hz±0 |
| ソフト/キーホールド | ソフト |
| 送信チャンネル | 1 |
| 受信チャンネル | 1 |
| オムニ ON/OFF | ON |
| ローカルコントロール ON/OFF | ON |
| プログラムチェンジ キャンセル | OFF |
| コントロールチェンジ キャンセル | OFF |
| ポリフォニック/モノフォニック | ポリフォニック |
| リバーブ (PF1500) | OFF |
| コーラス (PF1200) | OFF |
| 音色 | PIANO I |

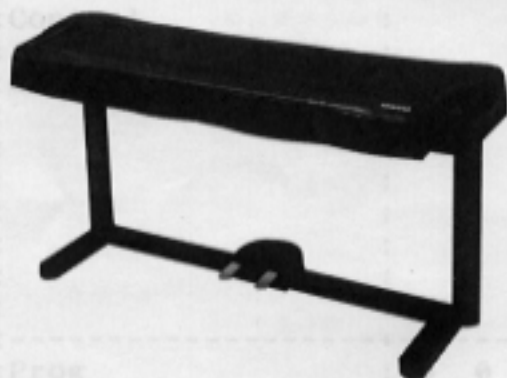
オプション(別売)

- 専用椅子 : CH-PF2000 ¥16,000



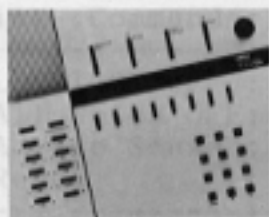
トータルコーディネートされたデザインとなっています。

- 専用キーボードカバー : KC-PF1500 ¥1,800



PF1200/1500/2000にお使いいただけます。

- FMトーンジェネレーター : TQ5 ¥65,000



トーンジェネレーター(音源)の機能にシーケンサーの機能をプラスしたハイコストパフォーマンスモデルです。

- ・FM音源搭載・8ポリフォニック・リバーブ/ディレイ内蔵
- ・8音色独立発音可能・シーケンサー付(8トラック/8ポリフォニック/8ソング)・内部音色RAM(100音色)
- ・内部音色ROM(100音色)・RAM/ROMカード(100音色)
- ・RAM/ROMカード(シーケンサーデータセーブ用)

- フットスイッチ

- ・FC4 ¥3,000



- ・FC5 ¥1,500



- MIDIケーブル

- ・MIDI01 ¥800
- ・MIDI03 ¥1,100

サービスについて

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ヶ年で
す。(現金、ローン、月賦などによる区別はございませ
ん。)また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お
名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。
無記名の場合は無効になりますので、くれぐ
れもご注意ください。

●保証書は大切にしましょう!

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに
ご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束
申しあげるものですが、万一紛失なさいますと保証期
間中であつても実費を頂戴させていただくことになり
ます。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけ
ますように充分ご配慮のうえで保管してください。また、
保証期間が切れましてもお捨てにならないでくだ
さい。後々のサービスに際しての機種判別や、サー
ビス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

| | |
|---|--|
| 東京電音サービスセンター | 〒211 川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434-3100 |
| 新潟電音サービスステーション | 〒950 新潟市万代1 4 8(シルバーボールビル2F) TEL (025) 243-4321 |
| 大阪電音サービスセンター | 〒565 吹田市新芦屋下1 16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262 |
| 四国電音サービスステーション | 〒760 高松市丸龜町8 7(ヤマハ高松店内) TEL (0878) 51-7777 22-3045 |
| 名古屋電音サービスセンター | 〒454 名古屋市中川区玉川町2 1 2 (ヤマハ名古屋流通センター3F) TEL (052) 652-2230 |
| 九州電音サービスセンター | 〒812 福岡市博多区博多駅前2 11 4 TEL (092) 472-2134 |
| 北海道電音サービスセンター | 〒064 札幌市中央区南十条西1丁目ヤマハセンター TEL (011) 513-5036 |
| 仙台電音サービスセンター | 〒983 仙台市卸町5丁目 7(卸商共同配送センター3F) TEL (022) 236-0249 |
| 広島電音サービスセンター | 〒731 01 広島市安佐南区祇園町西原2 27 39 TEL (082) 874-3787 |
| 浜松電音サービスセンター | 〒435 浜松市上西町911 TEL (0534) 65-6711 |
| 本 社 電 音 サ ー ビ ス 部 | 〒435 浜松市上西町911 TEL (0534) 65-1158 |

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店に
ご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。こ
の際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合に
はサービス料金を頂たく場合もあります。又お買上げ
店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あ
るいは電音サービス拠点にご連絡ください。移転先
におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、
引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよ
う手続き致します。

満1カ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料とな
りますが、引き続き責任をもってサービスをさせてい
ただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低
8年となっています。そのほかご不明の点などござい
ましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせく
ださい。

ヤマハ株式会社

| | |
|-----------|--|
| シヤセイザキ事務局 | 〒430 浜松市中沢町10 1 TEL (0534) 60-2445 |
| 国内営業部 | 〒150 渋谷区道玄坂2 10 7 新大宗ビル3F TEL (03) 476-1521 |
| 東京事業所 | 〒104 東京都中央区銀座7 11 3 矢島ビル TEL (03) 574-8592 |
| 大阪事業所 | 〒542 大阪市南区南船場3 12 9 心斎橋プラザビル東館 TEL (06) 252-5231 |
| 名古屋事業所 | 〒460 名古屋市中区錦1 18 28 TEL (052) 201-5145 |
| 九州営業所 | 〒812 福岡市博多区博多駅前2 11 4 TEL (092) 472-2155 |
| 札幌営業所 | 〒064 札幌市中央区南十条西1丁目 ヤマハセンター TEL (011) 512-6113 |
| 仙台営業所 | 〒980 仙台市大町2 2 10 TEL (022) 222-6146 |
| 広島営業所 | 〒730 広島市中区紙屋町1 1 18 TEL (082) 244-3744 |

*住所及び電話番号は変更になる場合があります。

YAMAHA

組立説明書/Assembly Instructions

PF1500/PF1200専用スタンド LG-PF1500 Keyboard Stand(for PF1500)

このたびは、YAMAHA PF1500/1200専用スタンドをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

この説明書をよくお読みいただき、正しく組み立ててください。

- 組み立ての前に、部品が揃っているか、部品表と現物を照合してください。
- 組み立ては番号順に行なってください。
- 各部品の組み付けの際、ネジ、ノブは仮止めの状態にしておき、一通り組み上がってから確実に締め付けてください。

※欠品等につきましては、お買い上げ店までお申し付けください。

※強い衝撃を避けてください。

※移動の際は分解することをおすすめします。

部品表

| 部品 No. | 名 称 | サイズ | 個 数 |
|--------|-----------------|-------|-----|
| ① | ボトムAss'y | | 1 |
| ② | ベースAss'y [R] | | 1 |
| ③ | ベースAss'y [L] | | 1 |
| ④ | 脚柱Ass'y [R] | | 1 |
| ⑤ | 脚柱Ass'y [L] | | 1 |
| ⑥ | +バインド小ネジ(平座金付き) | M4×12 | 16 |
| ⑦ | +バインドPタイト | M4×25 | 2 |
| ⑧ | 六角穴付ボルト | M8×20 | 8 |
| ⑨ | ゴム足 | | 2 |
| ⑩ | +バインド小ネジ | M6×16 | 6 |
| ⑪ | 六角レンチ | M6 | 1 |

Thank you for purchasing the YAMAHA LG-PF1500 stand specially designed for the YAMAHA PF1500. Please read these instructions carefully in order to assemble your stand properly.

- Before beginning assembly, please check the parts list to make sure all parts are included.
- Please follow the assembly steps in numerical order.
- When fitting the parts together, do not tighten the screws and knobs firmly until you have finished assembling all of the parts. When you are sure everything is correct, tighten the screws and knobs.

Avoid subjecting the unit to shock or impact.
We recommend disassembling the unit before moving it.

PARTS LIST

| Q'ty | Part Name | Size | Part No. |
|------|--------------------------------------|----------|----------|
| ① | Bottom assembly | | 1 |
| ② | Base assembly [R] | | 1 |
| ③ | Base assembly [L] | | 1 |
| ④ | Leg assembly [R] | | 1 |
| ⑤ | Leg assembly [L] | | 1 |
| ⑥ | Phillip's-head small binding screws | PW M4×12 | 16 |
| ⑦ | Phillip's-head binding P-tite screws | M4×25 | 2 |
| ⑧ | Hex bolts (with hole) | M8×20 | 8 |
| ⑨ | Rubber feet | | 2 |
| ⑩ | Phillip's-head small binding screws | M6×16 | 6 |
| ⑪ | Hex wrench | M6 | 1 |

1

- (1) 図1に示すように、ボトムAss'y ①に、ベースAss'y[R] ②とベースAss'y[L] ③を差し込みます。これらを固定ネジ ⑥ 各4本を使い締め付けます。さらにネジ ⑦ 各1本で、ベースAss'yのプラスチックカバーを止めます。
- (2) 脚柱Ass'y[R] ④と脚柱Ass'y[L] ⑤を図1Bのようにセットします。その際に、切欠き部分の位置に注意して、④と⑤をセットしてください。
- (3) (1)で組み立てたボトム+ベースAss'y ① ② ③を④と⑤の上のせます。
- (4) 図1Cで示すように、ケーブルを脚柱Ass'y[R] ④よりベースAss'y ②に通します。
- (5) 付属の六角レンチ ⑪を使って、固定ネジ ⑧で確実に締め付けます。
- (6) 次に、ゴムパッド ⑨を固定ネジ ⑥各4本で左右止めます。

- (1) Insert the base assemblies [R] ② and [L] ③ into the bottom assembly ①. Secure these using the 4 screws provided ⑥. Then secure the plastic cover of the base assembly with a single screw ⑦.
- (2) Position the leg assembly [R] ④ and leg assembly [L] ⑤ as shown in Figure 1B. When you do this, pay attention to the positioning of the cutaway sections.
- (3) Set the bottom and base assembly ① ② ③ constructed in step (1) on top of ④ and ⑤.
- (4) Pass the cable from the leg assembly [R] ④ to the base assembly ②, as shown in Figure 1C.
- (5) Use the accessory hex wrench ⑪ to tighten the screws ⑧ securely.
- (6) Next, secure the rubber pads ⑨ in place on the left and right with screws ⑥.

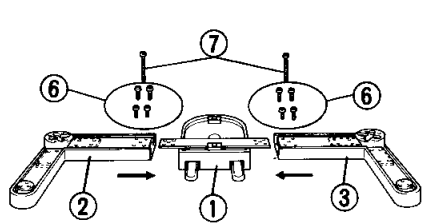


図1A/Figure 1A

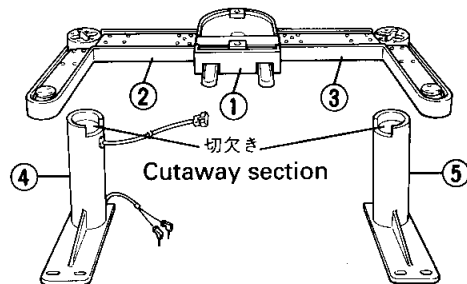


図1B/Figure 1B

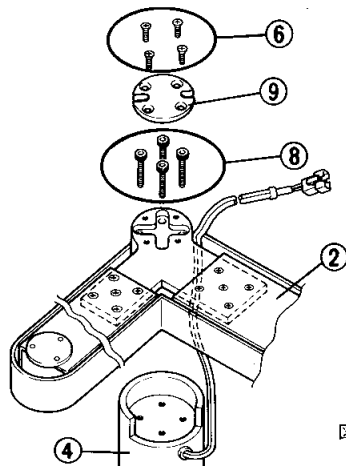


図1C/Figure 1C

2

図2に示すように、ケーブル端のコネクターをペダル部分の中央にあるコネクターに差し込み、ケーブルをベースAss'yの溝の中に押し込みながら通します。

As shown in Figure 2, insert the connector on the tip of the cable into the connector in the center of the pedal section. Then, pressing firmly on the cable, pass it through the center of the slot in the base assembly.

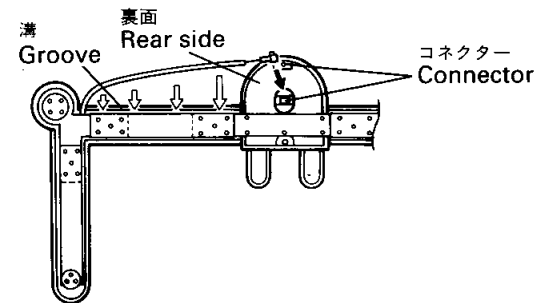


図2/Figure 2

3

ベースAss'yが下にくるように設置し、図3に示すようにPF1200/1500の下にあるガイドスクリューをスタンドの穴までスライドさせ、M6×16 ⑩の固定ネジで締め付けます。

Turn the assembled stand right side up so that the base assembly is on the bottom. As shown in Figure 3, slide the guide screws on the bottom of the PF1500 all the way into the slots in the stand. Tighten the M6×16 screws ⑩. Insert the pedal plugs into the back of the PF1500; the plug with the longer lead going to the SOFT terminal and the plug with the shorter lead going to the SUSTAIN terminal.

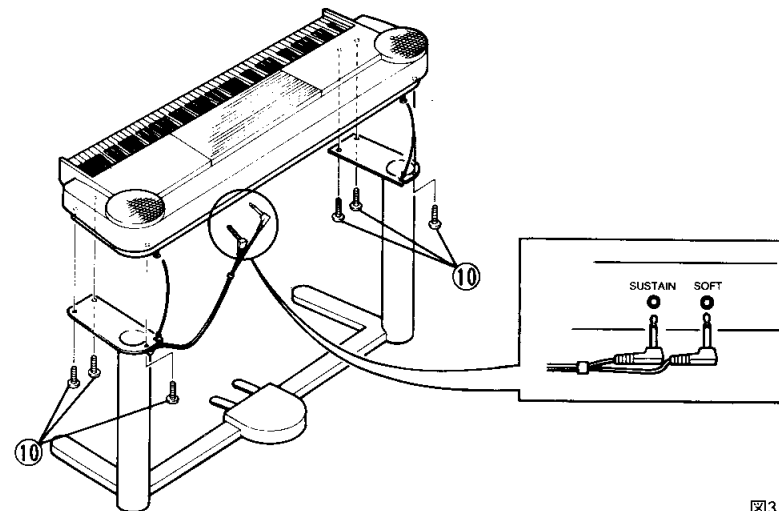


図3/Figure 3

ヤマハ株式会社

YAMAHA feelin' club



T4960693006894

VF92820 8811 ㊦ ① ②